

管理組合ニュース

第33期第3号(通算第41号)

発行日:2014/7/14



第33期(平成26年度) 環境整備活動について

5月25日開催の第32期定期総会で第33期の事業計画が賛成多数で可決されたことに伴い、環境整備活動も同時に開始しました。志木ニュータウンも入居開始から既に30年以上経過し、当時、低木で子供達によるクリスマスオーナメントで飾り付けをしていたシンボルツリーであるヒマラヤスギも、現在では10メートルを超える高木に成長しています。他の樹木・灌木類も同様に大きく生育しており、既に樹木類等に対する育成・成長対策時期は終了し、今後はこれらの維持・管理活動が重要な時期であると言えます。

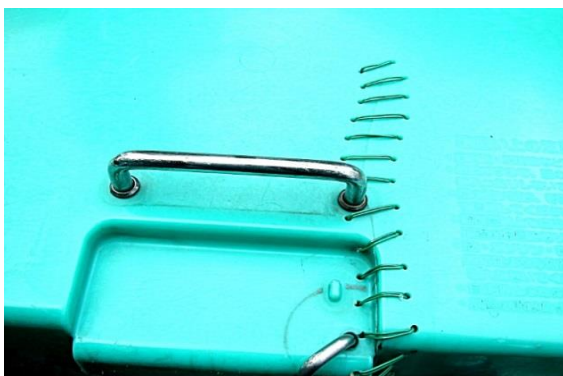
以上のことから、環境整備活動としての今期方針を「環境美化の維持・管理と推進」として活動をスタートしました。

■Repair 活動の推進

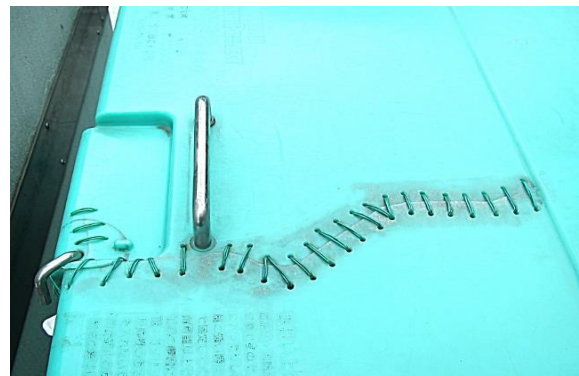
5R運動の一環であるRepair活動とは「修理して長く使い続ける」という意味に解釈されています。この活動に則り環境整備活動の一環として、ごみコンテナボックスの破損修理を今期手掛けました。現在中式街区内には、予備を含め64基のごみコンテナボックスが使用されています。老朽化のため大部分は修理して再利用していますが、再び破損個所が多く見受けられるようになりました。

この為、前期理事会において100万円強の予算を計上し一部のボックスを更新する予定でしたが、今期はRepair活動の観点から修理技術の高い人を臨時に雇用して、再修理によるコストダウンに挑戦しました。

結果、要した費用は、人件費と修理部品購入代合わせ8万円弱で済み、且つ、見映え良く修復出来、貴重な組合員皆様の管理費支出を抑えることが出来ました。



破損部分を手作業で補修



手作業補修されたごみコンテナの蓋

■雨水樹の土留め対策施工

降雨水の適切な排水を設置目的とした雨水樹ですが、街区内に設置されている約100箇所の内、37箇所の

雨水樹には土砂が大量に流入し、その土砂が雨水樹の底部に堆積して本来の機能が低下していることが、調

査の結果、判明しました。その為、土砂の流入防止の土留め対策を実施しました。実施に当っては、人目に付き易い位置で周囲が植物等に囲まれている雨水桝には、ジャノヒゲ(植物名)を主体に使用した方法、一方、灌木類等の奥で人目に付きにくい雨水桝には、ブロックやレンガを使用し、場所によってはジャノヒゲも併

用した方法を採用・施工しました。要した費用は、人件費とブロック、レンガの購入代合わせ7万4千円で済みました。

お願い

灰皿代わりに雨水桝へのタバコの吸い殻の投げ捨ては絶対にお止めください。



雨水桝の周囲にジャノヒゲを植えた土留め対策



ブロックとにジャノヒゲを併用した土留め対策

■今後の主たる活動内容

1) 鉢土集積所3箇所設置

4号棟ごみ集積所横に設置済みと同様な鉢土集積所を1・2・3・5号棟用として1基、6号棟用1基、7号棟用1基の合計3基を今秋までに設置する計画です。集積鉢土は、捨てられた鉢土が一杯になる前に搬出・処分します。

2) 剪定、補植、伐採

シンボルツリーであるヒマラヤスギの剪定と枯れて一部欠落状態の植栽場所への灌木類の補植を、自己活動休止期となる10月に実施予定です。

繁茂しすぎた樹木類の間引き目的の伐採と成長し過ぎた根によって地



4号棟ごみ集積場裏側に設置した鉢土集積所

下に埋設の下水管等に被害を及ぼしている集会所南東のケヤキの伐採・抜根を自己活動休眠期の1月頃に実施予定としています。

■第33期環境整備担当理事並びに専門委員

今期の環境整備担当理事と専門委員を紹介いたします。植栽問題・ごみ問題・街区の美化問題に関するご意見をお待ちしております。

棟一室番号 氏名

3-503	神前 真弓	(副理事長兼環境整備担当理事)
5-104	大上 修造	(環境整備担当理事)
6-1408	梅本 幸子	(環境整備担当理事)
4-410	永野 つね	(環境専門委員、委嘱)

今期1年間、どうぞよろしくお願い致します。(文責: 5-104 大上 修造)